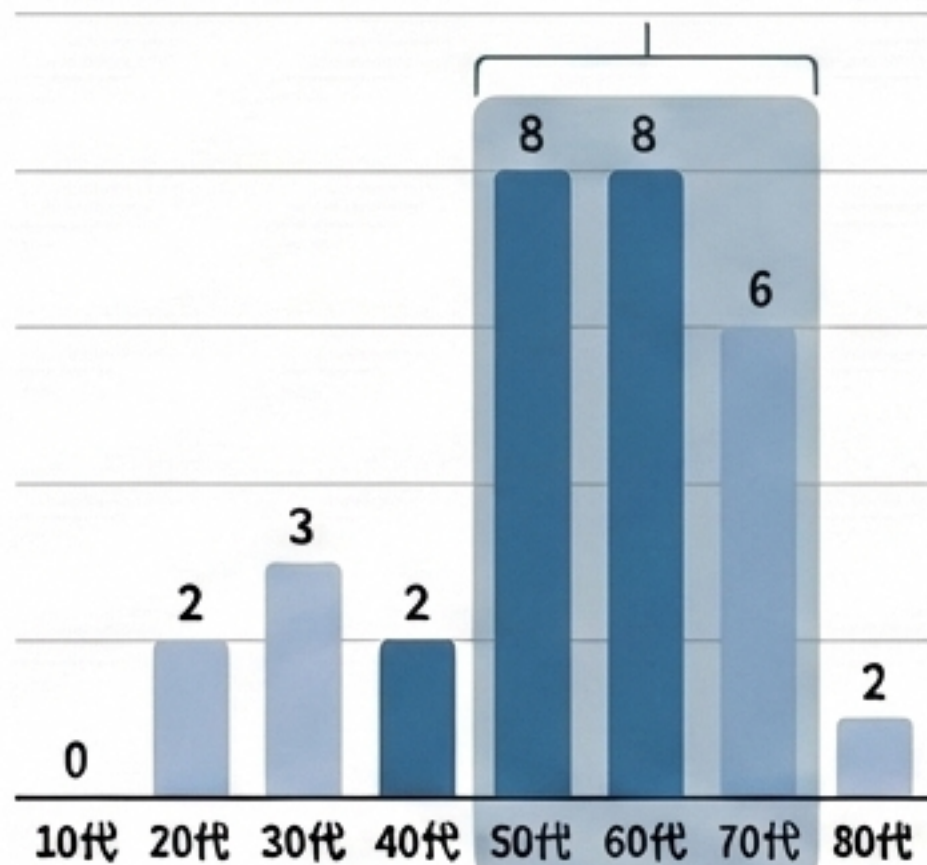


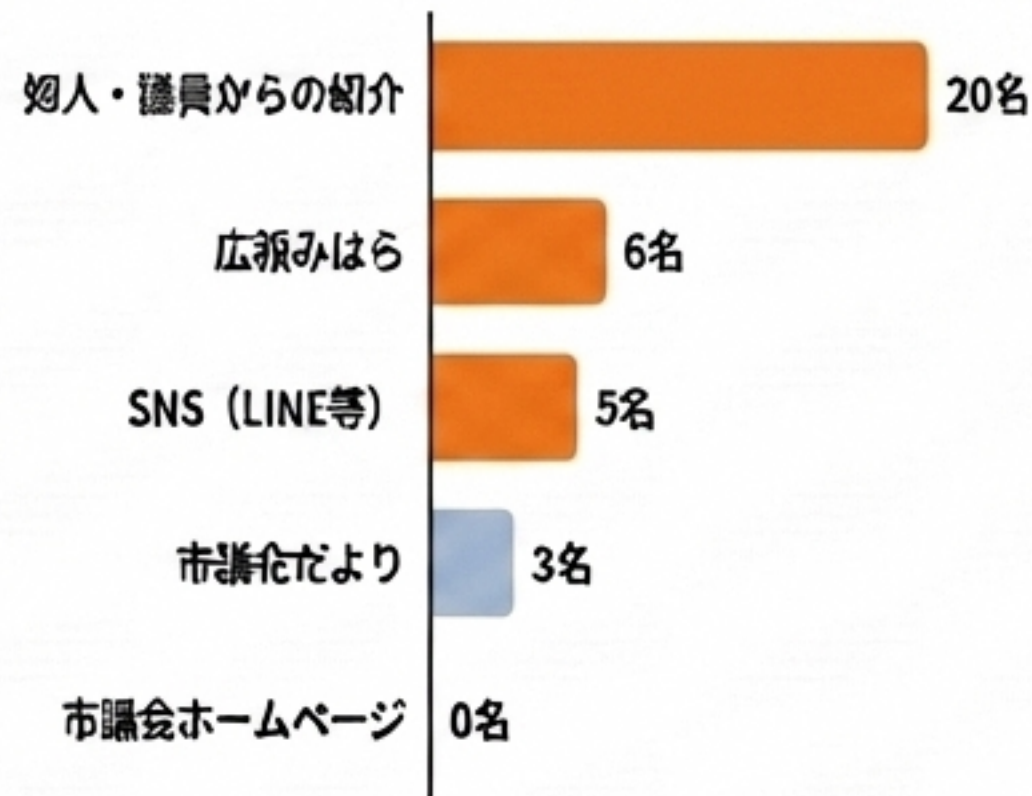
アンケート集計結果

参加者の年代



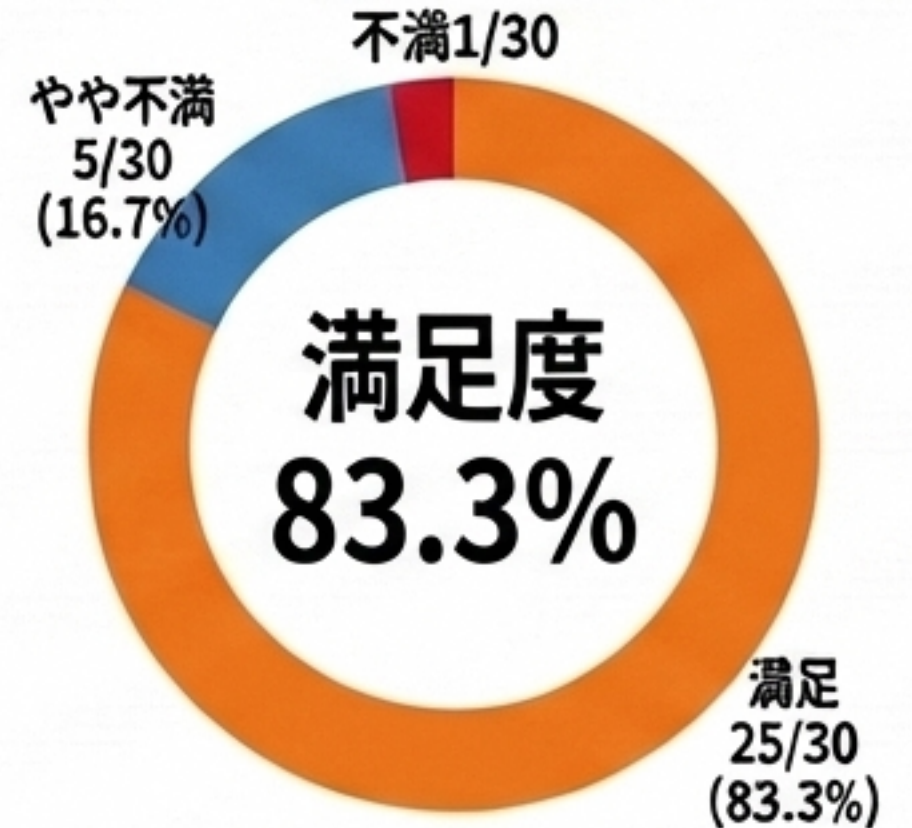
コア層は50代~70代 (22名)
だが、幅広い年代が参加

開催を知ったきっかけ



議会だよりなどの紙媒体やSNS
よりも、他人からの紹介による
参加者が多い

意見交換会の評価



全体的な満足度

(満足 10名 + 概ね満足 15名
+ やや不満 4名 + 不満 1名 / 計 30名)

「材話において『意見を聞いてもらえた』と感じた」

- 参加者の8割強が満足と回答
- 開催を知ったきっかけは、知人・議員からの紹介が多く、SNS等による周知効果は限定的




「集合型」から「出向く・気軽な対話」へ。多様な声の政策反映が求められている。

参加しやすい形式

- 1 議員が地域や団体に出向く「座談会・出前講座」 22名
- 2 祭りやイベント会場での「気軽な対話（シール投票等）」 6名
- 3 学校や職場での意見交換会 6名
- 4 オンライン（Zoom等）を活用した意見交換 5名

議会が待つのではなく、市民の日常空間へ出向くアプローチが高いニーズ

どのように活動をチェックしたいか

- 1位  市議会ホームページ・SNS（17名）
- 2位  市議会だより（15名）
- 3位  議会の傍聴と対面イベント（各8名）

オンライン上でのチェック要望が強い

広聴機能への最大の期待



「広く声を拾い上げ、具体的なカタチ（政策）に結びつくよう活用すること」が責務。